

News Release



2019年5月8日

ボルグワーナー

ボルグワーナー、電動化ソリューションを通じてさらなる成長路線へ 「人とくるまのテクノロジー展2019 横浜」に出展

- 先駆的なシリコンカーバイド技術を用いた「オンボードバッテリーチャージャー」を日本初公開
- 統合ドライブモジュール「iDM」などEV/HEV向け革新的ソリューションを展示
- 2019年5月22日(水)～24日(金)にパシフィコ横浜にて開催される「人とくるまのテクノロジー展 2019横浜」291番ブースに出展

ボルグワーナー(本社:アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者:フレデリック・リサルド/Frederic Lissalde)は、2019年5月22日(水)から24日(金)にかけて、パシフィコ横浜にて開催される「人とくるまのテクノロジー展 2019 横浜」の291番ブースにおいて、当社の高効率なソリューションを展示します。

自動車業界、特に電動化分野における急速な変化と進歩に伴い、BorgWarnerはその経験と専門知識を活かして次世代の電動化技術を積極的に開発しています。本展示会では、BorgWarnerが新開発した車載バッテリーチャージャー(OBC)を日本で初めて展示します。効率向上の市場要求に対して、Borgwarnerは最高効率を実現する先駆的なシリコンカーバイド技術を採用したクラス最高の電力密度性能技術を紹介します。OBCはバッテリー充電を行うハイブリッド車、電気自動車に搭載され、化学電池と互換性のある400V、650V、および800Vの電圧レンジに適用可能です。

そのほか、当社の革新的な技術を用いた、電動自動車向けの統合ドライブモジュール「iDM」や電動コンプレッサー「eBooster®」も展示します。統合ドライブモジュール「iDM」は最先端のトランスミッション、電気モーター、パワーエレクトロニクスを統合した製品で、用途により乗用車・軽量の商用車のフロント・アクスルまたはリア・アクスルに容易に統合できます。電動コンプレッサー「eBooster®」は、48V電気自動車に向かう現在のトレンドに対応した製品です。排気ガスに依存せず動作する技術を搭載しているため、迅速な加速を可能にし、ターボラグをほぼ解消します。

当社が得意とする 48V 技術に関しては、「統合エレクトロニクスモータージェネレーター」(MGI) や「P2 オンアクシス」を展示します。MGI は、増大する電力需要に対応するべく、より高いシステム効率と飛躍的なエネルギー回収能力を実現することを目的に開発しました。P2 オンアクシスは、エンジンと変速機の間にあるクラッチ部分に電動モーターモジュールを組み込むことにより、エンジンを取り換えることなく、ガソリン車をハイブリッド車へ転換させることが可能です。なお、当社のブースでは、展示製品に関する詳しい情報ご覧いただける AR(拡張現実)アプリケーションをご用意しています。

当社は、内燃機関技術において燃費改善と排出ガスの削減を最重要課題と捉え、内燃機関向けの「VTG ターボチャージャー」も展示します。ボルグワーナーは、世界中でガソリン消費の効率化と排ガス低減に向けた要求が高まっていることから、内燃機関向けターボチャージャーの需要も同時に高まっていくと考えており、「VTG ターボチャージャー」に代表されるように、製品のエネルギー効率を高めることに努めています。当社は、ターボチャージャー付きガソリン車の普及率は、2027 年までに 20%から 67%に増加すると予想しています。

ボルグワーナーのマーケティング／広報／政府渉外担当副社長のスコット・ジレット (Scott Gallett) は、「世界規模で推進システムの電動化は増加しており、今後数年以内にさらなる成長が見込まれています。『人とクルマのテクノロジー展』では、クリーンでエネルギー効率の高い競争力のある製品を展示します。」と述べています。



「人とくるまのテクノロジー展 2019 横浜」で展示されるボルグワーナーの先進技術
統合ドライブモジュール「iDM」(左)、オンボードバッテリーチャージャー(右)

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー (NYSE: BWA) は、内燃機関、ハイブリッド、電気自動車向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを提供するグローバルなリーディングカンパニーです。世界 19 カ国 68 カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ 30,000 人の従業員を擁しています。詳細については、borgwarner.com をご覧ください。

本プレスリリースに記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待、推測、予測に基づく、1995 年米国民事訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「もたらす」、「推測する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「狙い」、「取り組み」、「意図する」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」などの文言、その変形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予測困難かつ一般に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄が実際の結果と著しく異なる場合があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、自動車およびトラック製造（いずれも景気に大きく左右される）への当社の依存性、大手 OEM 顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レート、与信枠、重要な管理への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、様々な損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近の Form 10-K/A 年次報告書に記載したリスク要因など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 副島、中井、佐藤
TEL: 03-3571-5326 FAX: 03-3574-0316
EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp